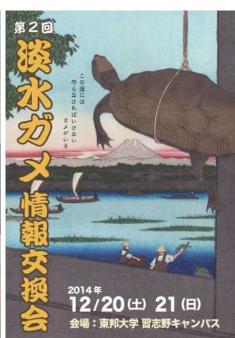
## 科学部カメ班 「淡水ガメ情報交換会」で発表!





発表する部長のOくんとKくん

当日のポスター

**2014年12月20日**(土)、科学部カメ班の発表が終わると、会場は大きな拍手に包まれた。淡水ガメ情報交換会は、年に1回、全国から淡水カメの研究者が集まる大きなイベントで、今年は120名程度が参加。1日目は、アカミミガメ(ミシシッピアカミミガメ)のシンポジウムが行われ、科学部カメ班はその中で発表した。

アカミミガメは、ペットショップで売られている**ミドリガメ**のことである。ミドリガメは 数年でかなり大きくなるため、飼いきれなくなって捨てられたカメが全国各地で大繁殖している。 その結果、在来種や農業などに大きな影響を及ぼしているのだ。しかし、増えることはわかって いても、**「何年で成体になり、いつ産卵するのか?1年に何回産卵し、何個産 卵するのか?**』といった基本的なことは、実は誰もわかってなかった。佐野高校の研究は、 それをきちんとしたデータの裏付けのもとに、明らかにしたのである。

発表後の拍手は「高校生にしてはよく頑張ったね」という努力賞的なものではなく、「今まで知りたかったことをよくぞ解明してくれた。」という心からの賛辞であることが伝わってきた。 シンポジウムのコーディネーターの先生は、「アカミミガメの繁殖に関して答えられるのは、

日本で君たちしかいない。 これはすごいこと なんだよ。わかってる?」とコメントしてくれた。 これは、リップサービスではなく、実際、そうなん だろうなと実感した。

科学部カメ班が、日本のカメ研究、ひいては生物 多様性の保全に大きく貢献できたことは、本当に素 晴らしいことである。

